

Dear地球民

第5号

1990年11月発行

編集発行 ゆかさ国際交流協会

神奈川県足柄下郡湯河原町土肥1-7-1

湯河原町商工会内 ☎0465-63-0111



7月29日午後1時29分。プラカードを手に改札口で待つホストファミリーの熱い歓迎を受けて、今年も海外の青年たちが湯河原駅に降り立ちました。

町内外の皆様のご協力を得て、「ゆかさ国際交流」プログラムも5回目を迎えることが出来ました。今年、夏の8日間を湯河原で過ごしたのは、ブラジル、台湾、マレーシア、中国、オーストラリア、アメリカ合衆国の計6ヶ国からの20名。期間中はホームステイを通して、日本の生活・家庭を知ってもらうことを中心に、町内バス見学、ゆかたやはっぴ姿での「ゆかさパレード」参加など、湯河原の夏を体験しました。

東京の日本語学校で学ぶ留学生の方たちからは、「都会にない人と人のふれあいを感じた」という感想を多く聞きました。最終日には、再会を強く約束して、涙ながらに別れを惜しむ風景が今年も見られ、短期間ながらも、お互いの国を知り、思い合う良い機会になりました。それぞれの故郷では、湯河原での熱い体験を伝えてくれることでしょう。



8月2日夜「地球民連」として“ゆかさ”パレードに参加



「おかあさんのお弁当 おいしいね」 芦ノ湖を見ながら昼食

お疲れさま！ 長かった一日



プログラム2日目の7月30日（月）は大型バスでの町内見学会。初めての企画ですが、留学生・ホストファミリー・ボランティアのスタッフが一緒に”なるほど！ザ・ゆがわら”巡りをしました。

先づは、泉の日本ジャンボ（株）本社工場を訪問し、最新技術による写真プリントの工程を見学。無人化された設備に、工学系のブラジル人学生からは専門的な質問も出て、皆興味津々。中国語の説明は、3年前にこのプログラムに参加した台湾の許秀華さんが担当してくれました。（現在湯河原にお住まいです）

次は万葉公園を散策。千歳川沿いの滝に大喜びし、郷土資料館では、ちょっぴり文学の勉強も・・・そしてお昼は、芦の湖を見下ろす芝生で、ホストのお母さん手作りのおにぎりをパクパク。おいしい空気と家族と仲間、楽しいひと時でした。（雲間から富士山がのぞいてくれれば文句なし！だったのにね）

ゲームに興じる皆を乗せたバスは、一気に海辺へ、東台福浦小学校に到着。次は教育施設の見学です。夏休み中のため授業風景は見られませんでした。教室の壁に張られた「お習字」に珍しそうに見入っていました。

商工会へ帰着後は、宮上の森脇先生のご指導で、やっさ踊りの練習。このとき初めて「ゆかた」なるものを見た人が大半で、ゆかた姿の自分を思い浮かべながら皆、踊りを覚えようと必死です。

そして夜は・・・有志によるボーリング大会が大盛況。長い一日、ちょっぴり疲れましたね。

湯河原の家族とともに

1990.7.29 - 8.5

雨川弘伸(宮上)
Stella C.O. Fuzii
(ブラジル)

伊藤公洋(宮上)
蔡鎮權
(マレーシア)

二見守彦(宮上)
Cathy Albert
(アメリカ)

露木八栄子(鎌治屋)
劉霞娟
(中国)

市村雅彦(宮上)
Samantha E. Mate
(オーストラリア)

鳥光弘孝(土肥)
Digenio H. Nakatani
(ブラジル)

杉本暢子(熱海市泉)
聶萱
(中国)

桜井学(門川)
陳政芬
(台湾)

竹林徹雄(福清)
Alice A. Yamasaki
(ブラジル)

内藤陽美子(土肥)
Marco L.V. De Castro
(ブラジル)

須藤明男(土肥)
Carlos M. Ueda(ブラジル)

高橋 達(福清)
柯 谷 仁
(台湾)

庄司延雄(土肥)
林佩珊(台湾)

柏木光之(鎌治屋)
王彦(中国)

牟田龍生(城堀)
郭仁光(マレーシア)

市原尚武(土肥)
許品蕙(台湾)

杉山道隆(宮上)
Silvia E. Watanabe
(ブラジル)

足利裕之(吉浜)
Ricardo R. Kuniyoshi
(ブラジル)

小沢康男(宮上)
Paola M.V. Reginatto
(ブラジル)

高橋一子(吉浜)
陳慧敏(マレーシア)



語学研修の巻

国際交流主催の語学研修は、今年も続けられることになった。毎年のように外国人は増えるばかりだが、外国人とはアメリカ人ばかりでなく、実態は色々の国の人達が、日本に住んでおり、新宿あたりでは、数々の言葉を聞くことができる。

しかし、中国人が圧倒的に多く、その他は顔色は違っても、大体英語なら通じる。この点ではどちらかの言葉での挨拶ぐらいできれば、なんとか意志表示はできそうだ。

中国語は昨年をお願いした“露木裕子”さんをお願いして、毎週木曜日に楽しい会話の練習が進んでいる。

英語は今年は南スージーさん（湯河原在住）をお願いしている。英国ケンブリッジ大学出の本格派クィーンズ・イングリッシュが聞けるので、大変好評だ。日本語はペラペラ、シンガーポール出身だから、広東語、北京語、とまさに四ヶ国語がこなせる。

現代はこのような数ヶ国語を軽くこなせる人が増えたが、さぞかし便利だろうと思う。日本も国際化どんどんが進むなかで、この種人間が増えそうだ。せいぜい頑張って下さい。



サンファンカピストラーノ市との交流について

本年8月に行われた協会の総会において決定していただいた事業の中に、サンファンカピストラーノ市との交流計画があります。これは、協会の大きな事業である「やさし国際交流」を“内なる国際交流”とすれば、“外に向けての国際交流”と言え、車の両輪のように両方が充実して行ってこそ湯河原の国際交流が進んでいくものだと考えています。

町では、来年の2月にサンファンカピストラーノ市との姉妹都市提携を行うための準備が進められています。そして、姉妹都市提携を契機に民間レベルの交流が地道に続けられていくことを期待しています。また、本年1月に調査団が訪れたときに、市長は、「市は自然や歴史に恵まれているので、たくさんの観光客が訪れ、湯河原とよく似ている。サンファンカピストラーノ市も湯河原町もそれぞれの国や世界の中で行っていくことがあると思うが、両市の交流を進めていくことも重要なことである。」と提言されていました。

今後、協会では会員の皆さんをはじめ住民の皆さんにも具体的な交流活動をお勧めし、地道に末長く交流を行っていきたくて考えております。

手始めに、サンファンカピストラーノの花は“赤いゼラニウム”です。四季咲きのきれいな花ですので、皆さんの手で町の中に増やしていったらどうでしょうか。

ホームスティ学生の横顔

去年はホームスティした学生のインタビューはアフリカの青年だった。
振興国にふさわしい活気のある青年だった。

今年は東南アジアのマレーシャの青年 蔡鎮権君をインタビューする積もりだったが、残念ながら面接の機会を失い、お世話した伊藤会長の奥さんに彼のプロフィールを語って戴いた。

今年の三月に日本語学校に入学、半年しかたたない内に上達し、大体の話題は日本語で通じたそうだ。中国系の人だから、中国語は当然として、その他英語も立派なものだったそうだ。つまり彼は四か国語をこなせるという。性格は良く、人柄は皆に好かれるタイプ、将来の夢はホテル経営とか、ある日、マレーシャ式のカレーライスを提供しますと、材料から作り方まで一切まかせた。ココナツ・パウダー（白色のもの）を使うので、カレーの色は白っぽい。どうも唐芥子をやけに多く入れるので心配になり、大丈夫か聞いたところ、任せて下さいとのこと、後で食べ始めた所、本人までが辛すぎて食べられない、良く聞いてみたら、マレーシャのものは日本のものと色形は一緒だが、辛さが違うことが分かり、大笑いになったそうだ。手で食べる習慣は日本にはないが、これもよい経験になったそうだ。

つまりこんな失敗がほんとうのお互いのカルチャーの理解の一つになり、親善につながるのではないか。

甘い親善ではなく、辛い親善になったお話しでした。



「これが教科書ね」東台福浦小学校で

今さらアメリカ旅行など珍しくもないが、初めての私には、いささかの感慨もあった。バック・ツアーではなく、一人旅の気安さから、少しばかり視野をかえて、見聞したものを報告してみたい。

センチメンタル・ジャーニー(感傷旅行)と名付けた理由は、私の年齢にも大きな原因がある。つまり私の世代は、戦前はアメリカ映画による数々の思い出、歌あり、ロマンスあり、憧れの美女ありだった。

途中には戦争という不幸な時代に直面し、敗戦による屈辱の経験も味わった。その複雑な心情を経て、日本が奇跡的な回復をし、今や経済摩擦の面で一々クレームをつけられるまでに力がついたので、どうもそのへんが信じられなく、今回たまたま機会を得られたので、思い切って見てやろうと決心した次第だ。

英語のことわざに *Seeing is believing* というのがある。(百聞は一見にしかず)

溢れるほどの情報があり、アメリカの実態をかなり知っているつもりが、実際は違う点を色々と見聞き、アメリカ庶民の生活にふれてみたものを、レポートしてみたい。

[国際化は往きの飛行機から始まった]

私の隣の座席にベトナム婦人が座った。彼女との対話は片言の英語しかない。どうか対話ができ、国際交流にはなった。日本に好意的だったので、内心嬉しかった。個人として話しをすると簡単に通じるお互いの家庭やら、子供のこと等、なぜこのようにスムーズに進むのか?

日本の外交は下手、もう少しスマートになれないの?と痛い指摘を受け、おまけにノーブレス・オブリージェ(高い身分にともなう徳義上の義務)についていささかの皮肉めいた指摘を受けた。旅のスタートからインテリ女性との出会い、緊張した気分で桑港空港に降りた。(次号へ) HI生

楽しさ120%



クリスマス Big Xmas



夏の"やっさ"国際交流で地球民気分を充分味わったてくださった方々も多かったようですが、町内交流ますます楽しくしたいものです。

そこで、当協会も参画するイベントが Big Xmas です。

町内の様々な企業や病院・団体の方々が年に一度楽しく集まれる素敵なイベントになります。当協会でもチケットを扱っておりますので、ぜひ、ご参加してみてください。

日時 12月19日(水)午後7時

場所 商工会館3階 大ホール

🍷 ハンド演奏あり、料理や飲物も満喫

チケット 1名3,000円

事務局 浅原(商工会内)へ

